【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成19年7月12日(2007.7.12)

【公表番号】特表2003-505031(P2003-505031A)
【公表日】平成15年2月12日(2003.2.12)
【出願番号】特願2001-511194(P2001-511194)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｐ　41/00　　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/09　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｐ　41/00　　Ａ
Ｃ１２Ｎ　15/00　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成19年5月17日(2007.5.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　(ａ)　単離されたリコンビナントヒプレートヒドロラーゼによる酵素的分割によって対応するＤ－アミノ酸のＮ－アセチル－Ｄ誘導体は脱アセチルすることなく対応するＬ－アミノ酸のＮ－アセチル－Ｌ誘導体を選択的に脱アセチルし、そして
(ｂ)　脱アセチルされていないＮ－アセチル－Ｄ誘導体および／または不完全に脱アセチルされたＮ－アセチル－Ｌ誘導体からこの予備調製された脱アセチルＬ－アミノ酸を分離すること
からなる、蛋白質構成または非蛋白質構成Ｌ－アミノ酸をそれらのラセミ体Ｎ－アセチル－Ｄ,Ｌ－誘導体から製造する方法。
【請求項２】　Ｌ－ホスフィノスリシン（Ｌ－ＰＰＴ）をＮ－アセチル－Ｄ,Ｌ－ホスフィノスリシンから製造する請求項１に記載の方法。
【請求項３】　Ｌ－グルタミン酸、Ｌ－ヒスチジン、Ｌ－ロイシン、Ｌ－グルタミンおよび／またはＬ－フェニルアラニンをそれらの対応するＮ－アセチル－Ｄ,Ｌ誘導体から製造する請求項１に記載の方法。
【請求項４】　１つまたは２つ以上のＬ－アミノ酸をそれらの対応するラセミ体Ｎ－アセチル－Ｄ,Ｌ誘導体からステノトロホモナス sp. 由来酵素ｄｅａｃ１および／またはコマモナス アシドボランス由来酵素ｄｅａｃ２を用いて鏡像選択的に製造する、請求項１～３のいずれか１項に記載の方法。
【請求項５】　Ｌ－ホスフィノスリシン、Ｌ－グルタミン酸、Ｌ－ヒスチジン、Ｌ－ロイシン、Ｌ－グルタミンおよび／またはＬ－フェニルアラニンをそれらの対応するラセミ体Ｎ－アセチル－Ｄ,Ｌ誘導体からステノトロホモナス sp. 由来酵素ｄｅａｃ１および／またはコマモナス アシドボランス由来酵素ｄｅａｃ２を用いて鏡像選択的に製造する、請求項１～３のいずれか１項に記載の方法。
【請求項６】　製造されたリコンビナントヒプレートヒドロラーゼが固定された形態で用いられる請求項１～５のいずれか１項に記載の方法。
【請求項７】　反応温度が約２５℃から６５℃である請求項１～６のいずれか１項に記載の方法。
【請求項８】　基質が５０mMより高く１５００mMまでの濃度で存在する請求項１～７のいずれか１項に記載の方法。

【請求項９】　１つまたは２つ以上のＬ－アミノ酸をそれらの対応するラセミ体Ｎ－アセチル－Ｄ,Ｌ誘導体から鏡像選択的に製造するための請求項１～８のいずれか１項に記載の方法における１つまたは２つ以上のヒプレートヒドロラーゼの使用。

【請求項１０】　Ｌ－ホスフィノスリシン、Ｌ－グルタミン酸、Ｌ－ヒスチジン、Ｌ－ロイシン、Ｌ－グルタミンおよび／またはＬ－フェニルアラニンをそれらの対応するラセミ体Ｎ－アセチル－Ｄ,Ｌ誘導体から鏡像選択的に製造するための請求項１～８のいずれか１項に記載の方法における１つまたは２つ以上のヒプレートヒドロラーゼの使用。

【請求項１１】　１つまたは２つ以上のＬ－アミノ酸をそれらの対応するラセミ体Ｎ－アセチル－Ｄ,Ｌ誘導体から鏡像選択的に製造するための請求項１～８のいずれか１項に記載の方法におけるステノトロホモナス sp. 由来のｄｅａｃ１および／またはコマモナス アシドボランス由来のｄｅａｃ２の使用。

【請求項１２】　Ｌ－ホスフィノスリシン、Ｌ－グルタミン酸、Ｌ－ヒスチジン、Ｌ－ロイシン、Ｌ－グルタミン、Ｌ－フェニルアラニンをそれらの対応するラセミ体Ｎ－アセチル－Ｄ, Ｌ誘導体から鏡像選択的に製造するための請求項１～８のいずれか１項に記載の方法におけるステノトロホモナス sp. 由来のｄｅａｃ１および／またはコマモナス アシドボランス由来のｄｅａｃ２の使用。